

# 令和6年度 学校経営計画

## 1. 教育目標

知・徳・体の調和がとれた健やかで、自主・自律の精神をもった主体的に生きる子の育成

## 2. 教育目標の具現化 『一人一人が成長できる、信頼される学校づくり』

(1) めざす児童像 健やかで主体的に生きる子（成長する子）

- ① よく考え、やりぬく子
- ② 心豊かな子
- ③ 明るく強い子

(2) めざす学校像 成長を支える学校

- ① 一人一人が活力があり、成長できる学校
- ② 安心して生活ができ、学ぶことができる学校
- ③ 一丸となり一人一人が誇りを持てる学校

(3) めざす教師の姿 学び続ける教師

- ① 子ども一人一人を多面的に見取り、成長を支える教師
- ② 向上心を持ち、自己研鑽に励み続ける教師
- ③ 自己の役割を理解し学校運営に主体的に参画し、家庭・地域に信頼される教師

## 3. 教育方針

- (1) 基礎基本の確実な定着を図るとともに、子ども一人一人の学力向上をめざした教育を推進する。
- (2) 心の教育の充実をめざし、自分や仲間を大切にし、命を大切にする教育を推進する。
- (3) たくましく生きるために、体力の向上、健康の保持増進の意識や能力の育成、安全意識の向上をめざした教育を推進する。
- (4) 家庭や地域と一体となって子どもを育む「地域とともにある学校づくり」を目指した教育を推進する。

## 4. 経営方針

- (1) 教職員一人一人が、教師としての使命と責任を自覚し、自己研鑽に励みながら、互いに協力し学校運営に参画する組織体制をつくる。(そろえる、確かめる、やりきる)
- (2) 児童の実態にそった指導を実践し、基礎的・基本的な内容の定着を図る。
- (3) 個に応じた生徒指導を推進するために、児童理解を深め、教育相談の一層の充実を図る。(ほめる、認める、励ます)
- (4) 子どもと向き合う時間の確保等、持続発展可能な学校に向け業務の適正化、効率化を図る。
- (5) 学校運営協議会と連携を図り、地域の創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを進めていく。

## 5. 中期目標と方策

- (1) 学校運営全般（米丸っ子の学びを支える）
  - ① 学校力向上に向けた組織的な学校運営の推進
    - ア 主幹教諭、各主任・主事が機能する学校運営を行う。
    - イ 職員会議、運営会議、主任会議、学年会の効果的実用的な運用をする。
    - ウ PDCAサイクルによって学校のマネジメント能力を高める。
  - ② 学級・学年経営の充実
    - ア 各学年レベルでのきめ細かな学習、生徒指導を学年主任を中心に組織的に行う。
    - イ 保護者、地域と学校との共通理解と連携協力で児童の自己実現を支援する。

- ③ 学校運営の改善に向けた学校評価の充実
    - ア P D C Aサイクルを意識した取組を重視し、改善が目標につながるサイクルの持続性を維持する。
    - イ 対応策・改善策の検証を十分に行うとともに、評価結果の公表及び説明を十分に行う。
  - ④ 安心して学ぶことができる学習環境の整備
    - ア 整然とした学習環境作りを徹底する。
    - イ 子ども達の学習意欲や興味・関心が高まる学習環境をつくる。
  - ⑤ 地域とともにある学校づくり
    - ア 学校運営協議会・地域学校協働活動の推進（学期ごとに開催し、学校運営の充実へ）
    - イ 地域との連携を積極的に推進する。
      - ・地域人材の活用
      - ・授業や学校行事における地域との連携
    - ウ 開かれた学校づくりを推進する。
      - ・感動のある体験活動を充実させ子ども達の活動の様子を発信
      - ・学校と家庭・地域が連携・協働していくための情報発信（HP等）を行う。
  - ⑥ 教師力向上に向けた教職員研修の充実
    - ア 授業力向上に向けた学校研究を推進する。
    - イ 校内 OJT を活用し、実情に即した校内研修を推進する。
      - ・若手教員早期育成プログラム
      - ・ICTを活用した教育活動の推進
      - ・特別支援教育研修、生徒指導研修
    - ウ 年間を通じた自己研修を推進する。
      - ・個人研修計画の作成及び継続的な実践
      - ・研修履歴を活用した対話に基づく研修の奨励
      - ・人事評価による目標管理
  - ⑦ 教育の質の向上に向けた教員の働き方改革
    - ・本務に専念し、教育の質的向上を図るための教職員の働き方改革の推進
    - ・教員が持続的に安定して子どもの教育に向き合える職場環境への取組
- (2) 学校教育活動（米丸っこの学びを推進する）
- ① 金沢型学習スタイルに基づく学習の実践研究
    - ア 各教科の授業改善に基づく研究を推進する。
    - イ 主体的・対話的な学びを具現化する展開場面、確かな学びの具現化や学びの連続性をつなげる終末場面の工夫をする。
    - ウ 学習意欲のさらなる向上と基礎的基本的な知識・技能の確実な定着を目指す。
    - エ ICT版金沢型学習スタイル実践と共有化を図る。
  - ② 学力の向上
    - ア 基礎・基本の確実な定着を図る。
      - ・学び方の基礎基本（話す・聞く・書く）と学習内容の基礎基本（読み・計算・書く）
      - ・Rタイムの確実な実施と終末場面での適用問題による定着化
      - ・朝学習の充実と徹底
      - ・家庭学習の習慣化と質の向上
      - ・チャレンジテストの充実
    - イ 個に応じた指導の実践を図る。
      - ・県基礎学力調査、全国学力学習状況調査、評価問題の結果を生かした授業改善
      - ・習熟度別少人数授業（算数科 高学年）の充実
      - ・読書活動の充実
  - ③ 小中一貫教育の充実と発展

- ア 小中三校連絡会、小中教員の相互授業参観、合同研修会の実施の定期開催
- イ 「教育課程づくり」「授業づくり」「人間関係づくり」「組織づくり」の充実
- ウ 小小、小中学校間の児童生徒の交流
- ④ 積極的な生徒指導の徹底
  - ア 積極的な生徒指導の実践（いじめ等への未然防止、初動の徹底）
  - イ 基本的な生活習慣の充実（身だしなみ、そうじ、あいさつ、時間厳守、返事）
  - ウ 学年サポート会、児童理解の会の定期開催による共有化
  - エ 保護者や専門機関との積極的な連携
- ⑤ 特別支援教育の推進
  - ア 児童理解の会の定期開催による全校で育てる取組
  - イ 特別支援コーディネーターの複数配置と有効活用
  - ウ サポート委員会の充実
- ⑥ 道徳教育、総合・体験教育の重視
  - ア 心に響く道徳教育の実践
  - イ 体験活動や自然活動を取り入れた授業の奨励
  - ウ 総合的な学習の時間の充実に努める。
    - ・地域との連携を軸に、郷土の理解と愛着等、SDGS 踏まえた内容を主要テーマとして持続
- ⑦ 主体性を育むたてわり・特別活動の推進
  - ア 心に響く道徳教育の実践
  - イ 体験活動や自然活動を取り入れた授業の奨励
  - ウ 異学年の集団で仲良く関わる場の設定
- ⑧ 体力の向上（健康な体力づくり）
  - ア 運動量を確保した体育授業の実践
  - イ 「体力アップ1校1プラン」、「スポチャレいしかわ」の取組
  - ウ 見通しをもった効果的な体育的行事の実施
  - エ 生命を大切にできる態度の育成（健康教育、食育等）
- ⑨ 生命を大切にできる態度の育成
  - ア 安全指導による命を守る行動に向けた指導
  - イ 健康教育、食育等の推進

## 6. 今年度の重点的な取組目標と重点的な方策

具体項目		目標（数値目標）	具体的方策（数値目標）
学力向上	授業力、指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校研究の推進(授業チェックシートの活用)</li> <li>・ICT 版金沢型学習スタイルの定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究視点の明確化、実践の見える化を図る（週案での確認、板書の蓄積等）</li> <li>・強化週間を設け、チェックシートで重点項目達成率80%以上</li> <li>・週3回以上ICTを活用した授業を行う</li> </ul>
	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末テスト平均80点以上</li> <li>・家庭学習強化週間での達成率90%以上</li> </ul>
豊かな	豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な生徒指導の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートによる実態把握を進めるとともに、児童理解の会を毎月行う</li> <li>・「Q-U アンケート」活用のための校内研修会</li> </ul>

心		<ul style="list-style-type: none"> <li>・温かく関わるたてわり活動の推進</li> <li>・生活目標を活用した取組の充実</li> <li>・道徳の指導方法の工夫改善</li> </ul>	<p>を実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割りグループで仲良し遊び等を行い、活動後のふり返りを通して協調性を高める</li> <li>・「米丸郵便局」の取組により児童同士で温かい関係をつくり、自己肯定感、自己有用感を高める</li> <li>・児童アンケート肯定的評価90%以上</li> <li>・「みそあじへ」を生活目標に位置づけるとともに、児童会との連携を図る 児童アンケート肯定的評価80%以上</li> <li>・学級会や代表委員会で学校の課題等について話し合い学校をよりよくしようとする意識を高める</li> <li>・年間12回の生活目標にあいさつに関する目標を3回入れて、「米丸しぐさ」を中心とした取組を進める。</li> <li>・生活委員会と連携して教職員があいさつ運動に参加して、お手本と見せると共にあいさつボランティアへの参加を呼びかける</li> <li>・道徳の授業を地域・保護者に1回以上公開する</li> </ul>
健やかな体	健康な体の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力の増進と生涯にわたって運動やスポーツに親しむ子の育成</li> <li>・健康な体づくりと生活習慣の定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通してスポチャレいしかわに取り組み、学期1回以上記録の更新を目指していく。また記録の掲示、記録会等を行い、児童の意欲の継続と記録の向上を目指す。</li> <li>・楽しく、安心して運動に取り組めるよう、運動環境を整え、児童の意欲の向上を目指し、結果として体力・技能の向上を目指す。</li> <li>・生活リズムカードを活用し、就寝時刻やネット時間の見直すことで、健康的な生活習慣の定着を図る。</li> </ul>
保護者・地域と	保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規則正しい生活習慣の定着</li> <li>・メディアと関わる時間を適切にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「早寝早起き朝ご飯週間」を実施する。取り組み期間は長期休業明けの1週間とし、児童の実態を数値として蓄積していく</li> <li>・学期に1回、ストップGの取組を実施する。</li> </ul>

の 連 携		<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ・不登校等今日的課題での連携</li> <li>・積極的情報公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間での「いじめ防止基本方針」の周知、徹底を図る</li> <li>・毎月いじめや悩みを把握するためのアンケートの実施する（市の調査含む）</li> <li>・学校評価結果をもとに成果や課題を学校運営協議会やスクールフォーラム等で公表する</li> <li>・HP、各種便りで積極的に情報を発信する</li> </ul>
特 別 支 援 教 育 の 充 実	多様できめ細やかな支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員間で十分な共通理解を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童理解の会、校内支援委員会を月に1回、または、必要に応じて適宜行う</li> <li>・特別支援の職員研修を年に1回行う</li> </ul>
組 織 力 の 向 上  業 務 の 適 正 化 ・ 効 率 化	学ぶ集団（チーム米丸）の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会の充実</li> <li>・報告・連絡・相談の徹底</li> <li>・共通指導の徹底</li> <li>・業務の平準化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週学年会を位置づけ、学年での教材研究等を行う。</li> <li>・児童の行動記録を確実に記録・伝達する</li> <li>・配慮を要する事例について、直ちに管理職、生徒指導、コーディネーター等関係者と担任が情報を共有し対応する</li> <li>・各担当者(主任や主事等)から出された指導内容について、各部会や学年等内で共有し、実施する</li> <li>・4委員会や学年会を機能させ平準化を図る</li> <li>・教材・教具を共通利用し、授業準備の効率化を図る</li> <li>・時間外勤務月平均36時間以内</li> </ul>